

# 海外向け乗換案内利用者の台湾におけるインバウンドの実態

## 日本から台湾へのアウトバウンドにも着目して

### Situation of Inbound Travelers to Taiwan using Transit Search Service Focusing on Outbound Travelers from Japan to Taiwan

株式会社ナビタイムジャパン 交通コンサルティング事業部  
小竹 輝幸 , 高木 知里 , 内 大介  
Teruyuki Kotake , Chisato Takagi , Daisuke Uchi  
E-mail consulting-group@navitime.co.jp

キーワード : 台湾, インバウンド, アウトバウンド, 観光戦略, 動態分析  
Keywords : Taiwan, Inbound, Outbound, Tourism strategy, Dynamic analysis

#### 1 はじめに

##### 1.1 背景

明日の日本を支える観光ビジョンにおいて、訪日外国人旅行者数を2020年に4,000万人、2030年に6,000万人とする目標が設定され、2017年は前年の19.3%増の2,869万人と毎年順調にその数を伸ばしている。

一方で、日本人海外旅行者数に目を向ければ、1995年頃より毎年概ね1,500万人から1,800万人の間で推移しており、今後益々、訪日外国人旅行者数との差が開いていくことが予想される。増加するインバウンドに関するマーケティングについては様々な取り組みが進んできており、アウトバウンドにおいてもマーケティング調査や動態分析について知見を深めていく必要がある。

##### 1.2 目的

以上のような背景のもと、本研究の目的を移動実績の詳細を正確に把握できるGPSデータと移動需要が把握できる経路検索条件データを用いて、台湾におけるインバウンドの実態ならびに、日本から台湾へのアウトバウンドの実態について明らかにすることとした。

#### 2 調査分析概要

##### 2.1 利用データの概要

株式会社ナビタイムジャパンが提供する海外向け乗換案内アプリNAVITIME Transitにおいて、2018年2月1日～2018年6月30日の5ヵ月間にユーザの同意を得て取得した台湾内におけるGPSデータと駅間の経路検索条件データを用いた。

##### 2.2 データ量と特性

分析対象のユニークユーザ(UU)数は、GPSデータでは、10,604UUでその言語の内訳は日本語が最も多く56%(日本から台湾へのアウトバウンドの人数の1.2%に相当<sup>1)</sup>)、次いで中国語(繁体)21%、英語12%となっている。経路検索条件データでは、ユーザ数が

20,716UU、検索数が286,684件で、こちらも日本語が最も多く71%、次いで中国語(繁体)が12%、英語が10%と続いている。

#### 3 台湾におけるインバウンドの実態

##### 3.1 台湾の概観

図-1に台湾でのGPSの測位状況を示す。台湾全体を見ると鉄道沿線の地域で測位が確認され、観測数は東部よりも西部で多く、台北駅を中心に台北市での測位が最も多く観測された。また、台北以外では、台中市や台南市、高雄市での測位が多く観測された。

##### 3.2 九份・十分

表-1の区間別ランキングを見ると、台北駅や空港以外に、人気観光地九份の最寄り駅である瑞芳駅や十分駅を出発地や目的地に指定した検索が上位にランクインしている。瑞芳駅は九份方面のバスの乗換や、平溪線の乗り入れ駅でもあり、鉄道で九份や十分方面に向かう観光客が検索する可能性が高い。一方、平溪線の十分駅は1時間に1本ほどしか列車がなく、交通の便がよいとはいえず、検索数は多く、観光地としてのポテンシャルがあることが伺える。

しかしながら、目的地として検索したユーザ数に対して、GPSで測位されたユーザ数(図-2、図-3)は、瑞芳駅付近で30.7%(979人)でありながら十分駅付近で15.6%(389人)と少ないことが分かる。

この結果から十分への興味があり検索はするが、その交通の不便さや時間などの制約から実際には訪れるのを断念するユーザが多いのではないかと推測される。また、九份付近で測位されたユーザは725人であり、台北駅付近で測位されたユーザ3,476人の20.9%に相当し、メジャーな観光地であることが伺える。台北中心の主な観光地は昼に訪れるユーザが多いが、九份付近は昼(10～17時台)に395人、夜(18～22時台)に499人と、夜に訪れるユーザが多く、ライトアップされた九份に人気が集まるようだ。

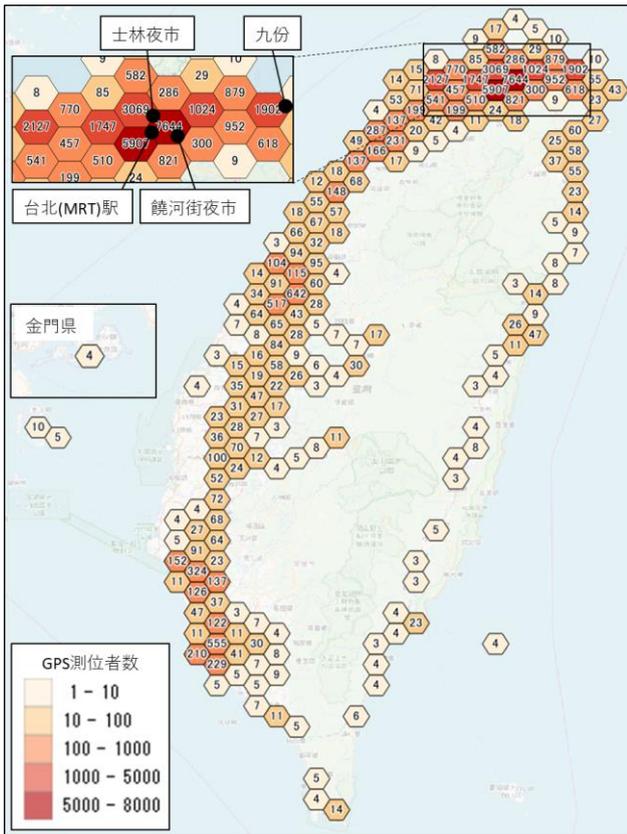


図-1 台湾のGPS測位者数

表-1 区間別ランキング

順	出発駅	到着駅	検索数	
			全体	日本語ユーザー
1	台北(MRT)	機場第一航廈(桃園空港MRT)	4,564	86%
2	台北(台鐵)	瑞芳	4,103	93%
3	台北(台鐵)	十分	3,520	96%
4	台北(MRT)	機場第二航廈(桃園空港MRT)	2,795	86%
5	機場第一航廈(桃園空港MRT)	台北(MRT)	2,494	82%
6	瑞芳	台北(台鐵)	2,426	93%
7	瑞芳	十分	2,342	94%
8	十分	瑞芳	2,088	94%
9	機場第二航廈(桃園空港MRT)	台北(MRT)	1,936	83%
10	台北(MRT)	瑞芳	1,564	91%

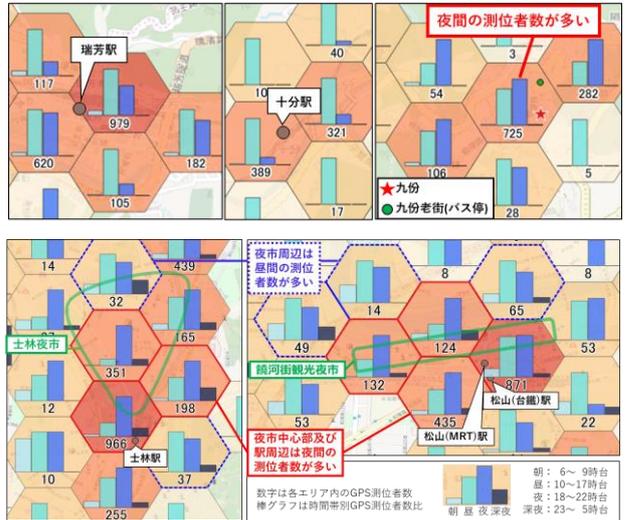


図-2 各エリアでの測位者数

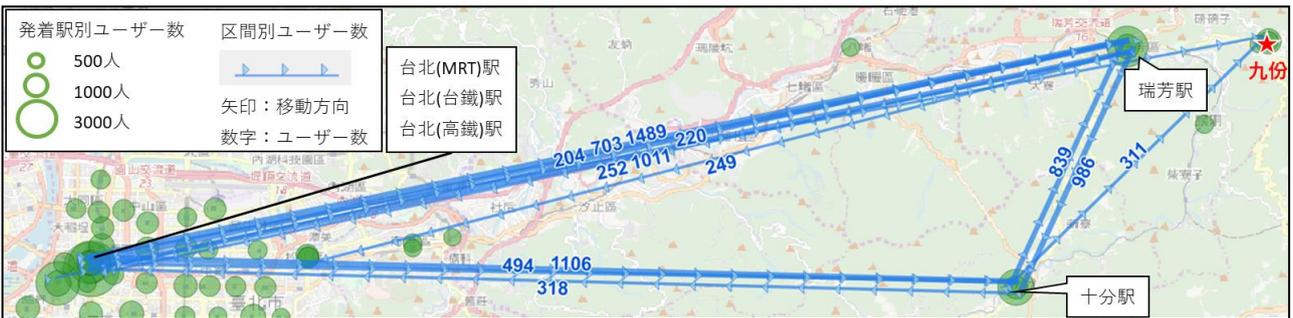


図-3 出発地目的地方方向別の駅間検索数

### 3.3 夜市

夜にGPSデータで測位されたユーザー数が増える観光地は他にもある。士林夜市と饒河街夜市付近では、夜に測位されるユーザーが顕著に増えている(図-2)。

いずれの夜市も駅に近いので、駅利用者も含まれていると考えられるが、駅付近と駅周辺の夜市開催地付近の時間帯推移を比較しても、顕著に昼と夜の測位者数の違いが出ていることが分かる。また、台湾で測位されたユーザー全体の約56%が日本語ユーザーだが、夜の時間帯における士林夜市では約72.2%、饒河街夜市では約71.9%と高く、日本語ユーザーに人気のナイトスポットの一つであることが伺える。

## 4 おわりに

### 4.1 まとめ

本研究では、台湾を訪れるインバウンド旅行者の動態について、海外向け乗換案内アプリNAVITIME Transitから取得できるGPSデータおよび経路検索条件データのビッグデータから動態を把握した。

### 4.2 今後の展開

#### 1) 滞在判定

GPSデータについては、測位者数の表示であったが、滞在の有無を判定できるようにし、通過しているかその地点で観光しているかを明らかにできるようにする。

#### 2) GPSデータと経路検索条件データとの関連付け

本研究では、GPSデータと経路検索条件データの結果を比較したが、今後は、実際に現地に足を運んだ旅行者がいつ検索したかなどを明らかにし、旅行者の計画と行動の傾向を明らかにできるようにする。

#### 3) 旅程分析

測位や検索結果だけでなく台湾への平均宿泊日数や台湾内での宿泊地の変遷などを把握できるようにする。

#### 4) 台湾以外のインバウンド動態の分析

NAVITIME Transitは、現在世界43エリアでサービスを展開している。今後は台湾だけでなく、それ以外のエリアにおいても同様な分析を実施できるようにする。

#### 参考文献

- 1) 中華民国交通部観光局「來臺旅客居住地分析統計」